

## 実体経済の動向

### ◇生産・出荷とも前月減少のあと再び増加、在庫は2か月連続の増加

(生産——前月減少のあと増加)

10月の鉱工業生産(速報、季節調整済み<sup>(注)</sup>前月比)は、+1.7%と前月減少(-1.5%)のあと再び増加した(前年同月比+8.0%)。

(注) 以下増減率は特に断わらない限り、前月比または前期比(物価を除き季節調整済み)。

10月の生産を財別にみると、前月減少の反動もあって各財とも増加(前月は各財とも減少)したが、特に資本財輸送機械、耐久消費財、建設財がかなり高い伸びを示した。すなわち、一般資本財は化学機械が2か月連続の大幅減となり、金属加工機械も減少したが、合理化投資関連の電子計算機、事務用機械や電力投資関連の発電機などが増加したため、全体では前月減少のあと増加した。資本財輸送機械は船舶が反動減となったものの、小型自動車が増加し、6月以降減少を続けたバス、トラックもかなりの増加を示したことから、全体では著増となった。建設財は輸内需好調の鉄鋼製品(棒鋼、形鋼)がかなり増加したほか、建設用金属製品(鉄骨、アルミサッシ等)、土石製品(遠心力鉄筋コンクリート管、道路用コンクリート製品等)も増加したため、4か月ぶりに大幅増加を示した。耐久消費財は小型自動車、二輪自動車が輸出向けを中心に、また民生用電気機械(電子レンジ、冷蔵庫)も内需堅調からそれぞれ増加したため、前月減少のあと大幅に増加した。非耐久消費財は、石油製品(揮発油、灯油)が減少したものの、ニットおよび繊維二次製品等の増加を中心に小幅ながら増加した。生産財は、石油製品(C重油、ナフサ)、プラスチック(ポリエチレン、ポリスチレン)が生産調整に伴い減少したが、鉄鋼製品(鋼板、冷間仕上鋼材)、通信・電子部品(トランジスタ等)などが内需好調を映じて増加したため、前月減少のあと増加した。

もあって大幅に増加し、6月以降減少を続けたバス、トラックもかなりの増加を示したことから、全体では著増となった。建設財は輸内需好調の鉄鋼製品(棒鋼、形鋼)がかなり増加したほか、建設用金属製品(鉄骨、アルミサッシ等)、土石製品(遠心力鉄筋コンクリート管、道路用コンクリート製品等)も増加したため、4か月ぶりに大幅増加を示した。耐久消費財は小型自動車、二輪自動車が輸出向けを中心に、また民生用電気機械(電子レンジ、冷蔵庫)も内需堅調からそれぞれ増加したため、前月減少のあと大幅に増加した。非耐久消費財は、石油製品(揮発油、灯油)が減少したものの、ニットおよび繊維二次製品等の増加を中心に小幅ながら増加した。生産財は、石油製品(C重油、ナフサ)、プラスチック(ポリエチレン、ポリスチレン)が生産調整に伴い減少したが、鉄鋼製品(鋼板、冷間仕上鋼材)、通信・電子部品(トランジスタ等)などが内需好調を映じて増加したため、前月減少のあと増加した。

(出荷——大幅増加)

10月の出荷(速報)は+3.6%(船舶を除くと+4.0%)と前月減少(-2.0%)のあと大幅増加した(51

### 鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	53年		54年				54年			
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月	10月	8月	9月	10月
鉱工業	126.2	128.5	131.6	134.2	135.3	133.3	135.5			
指 数										
前期(月)比	2.2	1.8	2.4	2.0	0.9	-1.5	1.7			
前年同期(月)比	7.7	7.4	8.0	8.7	9.5	6.9	8.0			
投資財	3.2	1.9	1.6	2.8	0.7	-2.3	1.9			
資本財	3.2	1.3	2.6	3.9	1.2	-3.3	1.6			
同(輸送機械を除く)	5.3	2.6	1.9	2.5	1.1	-4.2	0.8			
輸送機械	-2.9	-2.2	6.4	5.3	-1.2	-1.3	7.0			
建設財	3.1	2.1	0.1	0.7	-0.1	-0.3	2.3			
消費財	1.7	1.4	2.9	2.8	1.5	-1.3	1.9			
耐久消費財	1.9	2.0	5.3	7.4	1.2	-1.8	2.4			
非耐久消費財	1.4	1.0	0.9	-0.2	2.2	-1.5	1.3			
生産財	2.0	2.4	2.5	0.8	0.5	-0.6	0.8			

(注) 通産省調べ。54年10月は速報。前年同期(月)比は原指数による。

### 鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	53年		54年				54年			
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月	10月	8月	9月	10月
鉱工業	124.1	126.9	129.6	130.9	132.0	129.3	133.9			
指 数										
前期(月)比	2.0	2.3	2.1	1.0	0.5	-2.0	3.6			
前年同期(月)比	6.5	6.7	7.8	7.5	8.5	5.2	8.5			
投資財	2.3	2.5	0.9	2.9	1.0	-3.2	5.1			
資本財	1.9	3.0	-0.1	4.4	0.4	-4.0	7.0			
同(輸送機械を除く)	4.0	3.8	-1.0	4.5	1.6	-5.6	6.3			
輸送機械	-2.5	1.0	3.9	2.5	0.0	-4.9	10.9			
建設財	3.4	0.8	2.2	1.2	1.5	-1.5	2.1			
消費財	0.4	2.8	3.3	0.1	1.6	-1.0	3.4			
耐久消費財	-0.1	3.0	6.8	3.2	1.6	0.1	5.2			
非耐久消費財	1.0	2.4	1.0	-2.4	2.0	-2.9	2.6			
生産財	2.6	2.3	2.1	0.2	-0.3	-2.2	2.5			

(注) 通産省調べ。54年10月は速報。前年同期(月)比は原指数による。

年2月<+4.4%>以来の高い伸び率)。

10月の出荷を財別にみると各財とも軒並み増加し、特に資本財輸送機械、一般資本財、耐久消費財が大幅増加を示した。すなわち、一般資本財は製造業設備投資関連(金属加工機械、ベルトコンベア等)、合理化投資関連(電子計算機、事務用機械)が増加したほか、このところやや低調であった電力投資関連(発電機、産業用電気機械)も増加したため、前月減少のあと大幅増加となった。資本財輸送機械は海外需要の旺盛な小型自動車が3ヵ月ぶりに大幅増加となったほか、トラックも54年度公害規制実施を控えた駆込み需要もあって大幅増加したため著増した。建設財は前2ヵ月増加を示した土石製品が減少したものの、鉄鋼製品(棒鋼、形鋼)が輸内需の堅調から増加し、セメント、建設用金属製品なども増加したため、全体では2ヵ月ぶりに増加した。耐久消費財は、時計、二輪車が輸出減を主因に減少し、石油ストーブも寒気到来の遅れに伴う販売不振が響いて減少したものの、輸内需堅調のラジオ、テレビ、光学機械や小型自動車が増加したため、全体では3ヵ月連続の増加となった。非耐久消費財は浴用石けん、家庭用薄葉紙などの日用品が減少したものの、灯油が本格的な需要期を控えた流通筋の手当増を映じて大幅増加となったため全体では増加した。生産財は、銅、一部プラスチック(塩ビ、ポリエチレン)、石油製品(C重油)、アルミなどが流通・ユーザー段階の手当姿勢の慎重化等を映じて減少したが、内需堅調の鉄鋼製品(鋼板、冷間仕上鋼材)、通信・電子部品(トランジスタ等)が増加し、アルミ圧延品、BTX、段ボール原紙なども流通・ユーザー筋の先高見越しによる仮需台頭もあってかなり増加したため、全体では前2ヵ月減少のあと増加した。

(在庫——2ヵ月連続の増加)

10月の生産者製在庫(速報)は+1.6%と前月(+1.9%)に続き増加したが、同在庫率は(50年=100)は出荷増を映じて77.1と再び低下した(前月78.4)。

10月の在庫動向を財別にみると、出荷好調の一般資本財が3ヵ月連続の減少となり、生産財、建設財も小幅増加にとどまったが、資本財輸送機械、耐久消費財、非耐久消費財はかなり増加した。すなわち、一般資本財は、出荷好調の金属加工機械、事務用機械などを中心に3ヵ月連続の減少を示した。前月大幅増となった生産財は、石油化学製品(有機薬品、プラスチック)が引続きかなりの増加となったものの、石油製品(C重油、軽油)が精製メーカーの生産調整を映じて微減となったほか、鉄鋼(鉄鋼素製品、冷間仕上鋼材)も出荷増を映じて減少したため、全体では小幅の増加となった。建設財は土石製品が出荷減から、また建設用金属製品が生産増からそれぞれ増加したため、小幅の増加となった。

一方、資本財輸送機械は小型自動車の輸出船持ちによる一時的積上りを映じて3ヵ月連続の大幅増加となった。耐久消費財は出荷低調の石油ストーブが前月に続いて大幅増加したほか、小型自動車、二輪自動車も前記輸出船持ちにより一時的に積上ったため、4ヵ月連続してかなりの増加となった。非耐久消費財は出荷低水準の繊維二次製品

### 鉱工業在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)末比増減(-)率・%)

	53年	54年			54年			
	(期末)	12月	3月	6月	9月	8月	9月	10月
鉱指数	102.1	102.2	100.2	102.7	100.8	102.7	104.3	
工業	前期(月)末比	0.4	0.1	-2.0	2.5	-0.2	1.9	1.6
業	前年同期(月)末比	-2.9	-1.5	-2.3	1.0	-1.2	1.0	2.2
投資財	0.0	2.8	-1.9	-1.0	-0.8	0.2	0.9	
資本財	0.2	-0.1	2.3	0.4	0.5	0.2	1.6	
同(輸送機械を除く)	0.2	3.2	0.2	-0.8	-1.9	-0.1	-1.8	
輸送機械	-0.6	-3.9	3.7	3.9	4.5	2.2	4.4	
建設財	0.2	6.3	-6.4	-3.4	-2.0	-0.8	0.5	
消費財	5.6	0.2	-4.6	4.7	-0.5	2.4	3.7	
耐久消費財	7.1	6.0	-2.3	6.5	1.3	1.4	2.3	
非耐久消費財	3.8	-4.9	-6.2	4.2	-1.8	3.7	4.3	
生産財	-2.1	-1.9	-0.2	2.6	0.6	2.6	0.5	

(注) 通産省調べ。54年10月は速報。  
前年同期(月)末比は原指数による。

などを中心に前月に続いてかなり増加した。

**(設備投資——一般資本財出荷、機械受注<船舶、電力を除く>はかなりの増加)**

10月の一般資本財出荷(速報)は+6.3%と前月減少(-5.6%)のあと再びかなりの増加を示した(前年同月比+11.4%)。

品目別にみると、金属加工機械、ベルトコンベア、繊維機械、電子計算機等の製造業設備投資関連機器が大幅に増加したほか、このところ不振を続けてきた電力投資関連の発電機、産業用電気機械もかなりの増加を示した。

10月の機械受注(船舶、電力を除く民需)は、製造業からの受注増を主因に+26.4%と前月微増(+1.9%)のあと大幅に増加した(前年同月比+34.1%)。業種別にみると、製造業からの受注は繊維が減少したものの、自動車、機械、化学が2ヵ月連続して著増したほか、前月減少の鉄鋼、石油も大幅に増加した。一方非製造業(船舶、電力を除く)からの受注も+1.2%と小幅ながら4ヵ月連続の増加を示した。なお電力は前月大幅増加(+171.0%)の反動から-52.6%と減少した。

この間、官公需は国鉄、防衛庁からの発注増を映じて、+21.1%の増加となった。

**◇10月の小売商況は天候不順から伸び悩み**

10月の全国百貨店売上高(通産省調べ)は、前月持直し(+4.3%)のあと-3.5%と再び減少した(前年比+4.8%)。

**需要先別機械受注の推移**

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	54年			54年		
	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月	10月
民需	5,249 (11.7)	5,291 (0.8)	4,973 (-6.0)	4,170 (-18.2)	5,654 (35.6)	5,368 (-5.1)
同(船舶・電力を除く)	3,475 (-3.7)	4,000 (15.1)	3,602 (-9.9)	3,412 (-12.9)	3,477 (1.9)	4,396 (26.4)
製造業	1,701 (-3.0)	2,132 (25.3)	1,827 (-14.3)	1,696 (-22.3)	1,603 (-5.5)	2,502 (56.0)
非製造業	3,479 (18.2)	3,156 (-9.3)	3,148 (-0.2)	2,477 (-14.4)	4,073 (64.4)	2,903 (-28.7)
同(船舶・電力を除く)	1,774 (-5.1)	1,897 (7.0)	1,788 (-5.8)	1,734 (-1.0)	1,915 (10.5)	1,938 (1.2)

(注) 経済企画庁調べ。カッコ内は前期(月)比増減(-)率(%)。

品目別にみると、月前半の台風や長雨に加え寒気到来の遅れもあって秋冬物衣料が不振となったほか食料品、家庭用品等も総じて伸び悩んだ。もっとも11月中旬以降は、寒気到来とともに冬物衣料を中心にやや持直した模様である。

11月の主要耐久消費財の販売状況を見ると、乗用車新車登録台数(軽を除く)は、2ヵ月連続減少のあと+0.8%とやや持直した(前年比+3.5%)。家電製品についても、カラーテレビ、音響機器(ステレオ、ラジカセ)、VTR等が引き続き好調に推移したうえ、暖房器具もFF式石油ストーブが不振のほかは家具調こたつ、電気毛布等を中心にまずまずの売行きを示した。

**◇商況の基調——小幅続伸**

11月の商品市況を見ると、石油製品(ガソリン、灯油、C重油、軽油)、天然繊維(綿糸、生糸)、製材等が軟化をみせたほか、石油化学製品(塩ビ、高圧ポリエチレン等)、紙(上質紙、白板紙)が前月に引き続き騰勢一服となったものの、条鋼類、くず鉄、非鉄(銅、鉛、亜鉛、アルミ)、合織(ナイロン、ポリエステル・フィラメント)、砂糖、セメント等が総じて続伸したため、全体としては小幅ながら続伸商況となった。

これは、①海外高や円安を映じ非鉄および砂糖が高騰したことが主因であるが、このほか、②合織、セメントでは引き続き慎重な生産姿勢を維持しつつ原燃料コストの価格転嫁を進めたこと、また、③くず鉄が電炉メーカーの増産や輸入玉の減少から大幅続伸となったこと、などを映じたもの。

**(卸売物価——続騰)**

11月の卸売物価は前月比+1.5%と前月(+1.1%)を上回る大幅上昇となり、前年同月比では+16.1%となった。

品目別には製材・木製品が続落をみせたものの、原油、金属素材(鉄くず、鉄鉱石)、非鉄金属(銅、亜鉛、アルミ)、などの輸入関連品や輸出向け鉄鋼(熱延広幅帯鋼、亜鉛鉄板)等が海外市況の上伸や、為替相場の円安化などから大幅上昇を示したほか、国内品も食料品、化学製品などが需給

## 卸売物価の推移

(単位・%)

	ウェイト	54年		54年				
		4～6 月平均	7～9 月平均	7月	8月	9月	10月	11月
総平均	1,000.0	4.1	4.9	1.9	1.6	1.4	1.1	1.5
食料品	140.9	1.0	0.6	0.4	— 0.3	0.1	0	0.9
非食料農林産物	18.9	10.7	13.5	5.9	1.5	0.5	0	2.3
繊維製品	62.9	1.2	1.1	— 0.1	1.0	0.7	0.6	0.3
製材・木製品	33.6	6.6	16.9	8.4	1.6	1.2	— 1.2	— 0.5
パルプ・紙・同製品	28.9	6.0	4.1	0.5	3.5	2.3	2.2	1.4
金属素材	12.6	8.1	5.5	0.7	3.5	5.4	4.4	8.7
鉄鋼	80.7	2.3	1.5	0.4	0.3	0.5	0.8	1.2
非鉄金属	26.1	10.5	4.1	— 0.3	1.3	5.1	7.1	2.4
金属製品	37.0	0.7	0.8	0.4	0.4	0.2	1.9	0.6
電気機器	73.3	0.7	0.2	0	0	0.3	0.3	0.4
輸送用機器	74.0	0.6	0.5	0.2	0.3	0.2	0.6	1.1
一般・精密機器	95.7	1.1	0.4	0	0.2	0.4	0.4	0.4
化学製品	91.1	7.7	7.7	3.2	3.0	2.3	1.7	1.2
石油・石炭・同製品	102.2	14.4	22.3	8.8	7.4	4.0	2.6	4.9
窯業製品	30.5	1.5	2.1	0.4	0.7	2.9	1.7	0.9
電力・ガス	25.5	10.0	3.2	0.7	2.1	1.8	1.1	1.7
雑品目	66.1	3.2	4.1	1.9	0.6	1.0	1.6	1.4
工業製品	816.4	3.1	4.1	1.5	1.3	1.3	1.0	0.8
大企業性製品	579.9	3.0	3.9	1.6	1.5	1.3	1.2	0.8
中小企業性製品	214.6	2.8	4.1	1.6	0.8	0.9	0.6	0.2
非工業製品	158.1	7.9	9.2	3.7	3.0	1.7	1.6	4.9

(注) 日本銀行調べ。

堅調や原料コスト高を映じて、上伸となった。

(消費者物価——11月<東京都区部、速報>は季節商品の値下りを主因に反落)

11月の消費者物価(東京都区部、速報)は季節商品の値下りから前月比 -0.8%の下落となったが、前年同月比では +4.7%と引続き伸びを高めた。

前年同月比で伸びを高めたのは、前月の台風、長雨の影響が尾をひき季節商品が秋冬物野菜の回り期としては小幅の下落にとどまったことが主因であるが、このほか光熱費(灯油、プロパンガス)等がジリ高歩調をたどっていることも響いている。

#### ◇総合収支は既往最高の赤字

10月の国際収支をみると、輸出が減少となった一方輸入が高水準を持続したことから、貿易収支

が再び赤字に転化し(360百万ドルの赤字、前月147百万ドルの黒字)、経常収支も赤字幅を拡大した(1,126百万ドルの赤字、前月同792百万ドル)。さらに、長期資本収支が記録的な流出超(流出超2,437百万ドル、前月同1,736百万ドル)となったため、総合収支は既往最高の赤字となった(3,471百万ドルの赤字、前月同2,332百万ドル)。

長期資本収支が記録的な流出超となったのは、本邦資本面で円建外債の発行等により証券投資の流出超幅が拡大したことに加え、外国資本面でも対日債券投資が大幅処分超となったことなどによるものである。

なお、10月の季節調整済み貿易収支は前月並みの赤字(460百万ドルの赤字、前月同490百万ドル)となり、貿易収支季調後の経常収支も1,226百万

## 消費者物価の推移

(単位・%)

		ウェイト	54 年		54 年			最近月の 前年同月比
			4～6月 平均	7～9月 平均	9 月	10 月	11 月	
東 京	総 合	100.0	2.2	0.9	1.4	1.6	*-0.8	* 4.7
	季節商品を除く総合 (季節商品)	91.9 ( 8.1)	1.9 ( 4.5)	0.8 (- 2.1)	1.4 ( 1.7)	0.4 ( 15.5)	0.2 (* -9.5)	4.3 (* 10.5)
	食 料	40.1	1.0	0.9	0.7	3.2	*-2.0	* 3.1
	住 居	11.1	1.4	0.7	0.2	0.5	0.2	5.7
	光 熱	4.2	8.3	2.4	0.8	0.7	0.6	13.1
	被 服 雑 費	12.4 32.2	1.8 3.2	0.5 0.8	9.1 0.4	1.7 0.3	- 0.3 0.1	6.0 5.0
全 国	総 合	100.0	2.5	1.0	1.3	1.2	...	4.2
	季節商品を除く総合 (季節商品)	91.7 ( 8.3)	2.1 ( 7.1)	1.0 ( 0.9)	1.3 ( 1.8)	0.5 ( 10.0)	... ( ...)	4.4 ( 3.5)
特 殊 分 類	農 水 畜 産 物	16.3	3.9	0.6	1.8	5.2	...	2.7
	工 業 製 品	46.6	2.0	1.3	2.2	0.8	...	4.4
	うち大企業性製品	21.4	1.7	2.4	0.7	0.6	...	5.1
	中小企業性製品	25.2	2.3	0.3	3.5	1.0	...	3.8
	サ ー ビ ス	33.6	2.8	0.9	0.1	0.1	...	4.9

(注) 1. 総理府統計局調べ。

2. \* は速報。

ドルとほぼ前月(1,429百万ドルの赤字)並みの赤字となった。

## (輸出—減少)

10月の輸出(国際収支ベース、季節調整済み)は、前月比-5.3%と前月増加(+5.6%)のあと減少した(原計数の前年同月比では+4.7%)。

品目別(通関ベース)にみると、弱電製品(テレビ、ラジオ、テープレコーダー)、光学機器が増加したものの、自動車、鉄鋼、合繊維物等が台風による船積み遅延もあって減少した。

11月の輸出信用状接受高(季節調整済み、前月比)は-1.0%と4か月ぶりに減少した。これを品

目別にみると、繊維製品が小幅増加となったものの、化学製品、鉄鋼、機械は3か月連続増加のあと減少した。

## (輸入—減少)

10月の輸入(国際収支ベース、季節調整済み)は-5.4%と前月大幅増加(+8.7%)のあと減少となった(原計数の前年同月比は+24.3%)。

品目別(通関ベース)にみると、非鉄鉱石、繊維原料(綿花、羊毛)、砂糖が増加した一方、原油、鉄鉱石が前月大幅増加の反動から減少した。

## 国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	54 年			54 年			前年10月
	1～3月	4～6月	7～9月	8 月	9 月	10 月	
経常収支	△ 711	△ 1,126	△ 3,202	△ 1,532	△ 792	△ 1,126	393
貿易収支	1,690	1,523	△ 325	△ 669	147	△ 360	1,029
輸出	22,891	24,454	26,057	8,144	9,192	8,729	8,340
輸入	21,201	22,931	26,382	8,813	9,045	9,089	7,311
貿易外収支	△ 2,054	△ 2,399	△ 2,622	△ 789	△ 865	△ 672	△ 550
移転収支	△ 347	△ 250	△ 255	△ 74	△ 74	△ 94	△ 86
長期資本収支	△ 3,570	△ 3,443	△ 1,232	594	△ 1,736	△ 2,437	△ 1,663
本邦資本	△ 4,654	△ 4,121	△ 3,326	△ 727	△ 1,259	△ 1,306	△ 1,592
外国資本	1,084	678	2,094	1,321	△ 477	△ 1,131	△ 71
基礎的収支	(△ 4,281) (△ 3,399)	(△ 4,569) (△ 4,334)	(△ 4,434) (△ 5,011)	(△ 938) (△ 477)	(△ 2,528) (△ 3,165)	(△ 3,563) (△ 3,663)	(△ 1,270) (△ 1,382)
短期資本収支	264	△ 324	990	730	△ 27	331	32
誤差脱漏	714	794	△ 277	△ 179	223	△ 239	267
総合収支	△ 3,303	△ 4,099	△ 3,721	△ 387	△ 2,332	△ 3,471	△ 971
金融勘定	△ 3,303	△ 4,099	△ 3,721	△ 387	△ 2,332	△ 3,471	△ 971
外貨準備増減	△ 4,206	△ 3,834	356	52	168	△ 2,062	155
その他	903	△ 265	△ 4,077	△ 439	△ 2,500	△ 1,409	△ 1,126
外貨準備高	28,813	24,979	25,335	25,167	25,335	23,273	29,395
為銀対外ポジション	△ 15,620	△ 16,133	△ 19,865	△ 17,482	△ 19,865	△ 21,165	△ 12,543

- (注) 1. 基礎的収支カッコ内は、貿易収支のみ季節調整した計数。  
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。  
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

## 輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支ベース			通 関		輸 出	輸 出	輸入承認・
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	信用状	認 証	届 出
54年 1～3月	8,084 (- 3.2)	7,226 (+ 4.1)	858	8,165 (- 3.9)	7,937 (+ 9.3)	5,853 (+ 3.1)	8,374 (- 3.5)	8,230 (+ 7.9)
4～6月	8,140 (+ 0.7)	7,554 (+ 4.5)	586	8,290 (+ 1.5)	8,511 (+ 7.2)	6,335 (+ 8.2)	8,627 (+ 3.0)	8,698 (+ 5.7)
7～9月	8,647 (+ 6.2)	8,948 (+ 18.4)	△ 301	8,794 (+ 6.1)	9,806 (+ 15.2)	6,527 (+ 3.0)	9,067 (+ 5.1)	10,708 (+ 23.1)
54年 7月	8,441 (+ 2.5)	8,645 (+ 15.4)	△ 204	8,539 (- 0.6)	9,251 (+ 4.9)	6,334 (- 3.5)	8,842 (+ 4.3)	10,665 (+ 25.4)
8月	8,511 (+ 0.8)	8,719 (+ 0.9)	△ 208	8,670 (+ 1.5)	9,957 (+ 7.6)	6,458 (+ 2.0)	8,994 (+ 1.7)	11,598 (+ 8.7)
9月	8,989 (+ 5.6)	9,479 (+ 8.7)	△ 490	9,172 (+ 5.8)	10,210 (+ 2.5)	6,788 (+ 5.1)	9,364 (+ 4.1)	9,862 (- 15.0)
10月	8,510 (- 5.3)	8,970 (- 5.4)	△ 460	8,816 (- 3.9)	10,375 (+ 1.6)	6,824 (+ 0.5)	9,634 (+ 2.9)	11,710 (+ 18.7)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。  
 2. カッコ内は対前期(月)比増減(-)率(%)。  
 3. 輸出信用状接受額および輸入承認・届出額は、特殊大口を除く。